

梅咲敦子博士記念号の発行に際して

梅咲敦子教授は、2023年3月31日をもって関西学院大学を定年によりご退職されることになりました。梅咲教授は2010年4月に関西学院大学商学部教授として就任され、爾来13年の間、商学部の英語教育に多大な貢献をされてこられました。

梅咲敦子教授は、1977年3月に大阪外国語大学外国語学部ドイツ語学科を卒業後、サントリー株式会社の国際部に勤務され、その後大阪府立北千里高等学校で1987年3月まで英語科教諭として教鞭を執られました。1987年からイギリスレディング大学で英語教育について学ばれ、英語教育学修士を取得されています。1989年4月から大阪大学大学院言語文化研究科の修士課程、博士課程へと進まれ、博士（言語文化学）の学位を取得されました。1994年からは帝塚山短期大学専任講師として、1996年からは帝塚山大学人文科学部助教授として、2003年からは立命館大学政策科学部教授および立命館大学大学院言語教育情報研究科併任教授として、2010年4月から関西学院大学商学部教授として英語を中心とする講義を担当されました。また、大学院である関西学院大学言語コミュニケーション文化研究科博士前期課程指導教授（翌2012年からは後期課程指導教授として）として講義を担当されました。行政では、2011年4月から2013年3月まで言語教育研究センター副長（英語担当）を、2016年4月から2018年3月まで商学部において学生担当の副学部長をお勤めに

なりました。

学会活動では、英語コーパス学会の理事、大学英語教育学会の理事、日本英語音声学会評議員などの要職を歴任され、学会の発展に積極的に関わってこられました。

梅咲敦子教授のご専門は英語学であり、コーパスを利用した英語研究と教育を研究テーマとされています。国際会議における英語での口頭発表と英語で書かれた論文を集め、それを電子化して既存のコーパスとの比較をおこない、口頭発表と論文の英語の相違を分析する研究、また大量の言語資料（コーパス）を用いて語と語の共起関係（コロケーション）をコンピュータで解析し、その成果を英語教育法に活用する研究などに取り組んでこられました。これらの研究成果は商学部での英語教育にも生かされています。

梅咲敦子教授のご退職にあたり、商学部の教育、研究、行政に対する多大なご貢献に衷心より感謝の意を表し、ここに『商学論究』の記念号を発刊できますことは大きな喜びであります。最後になりましたが、この記念号にご執筆頂いた先生方、ならびに編集に携わって頂いた先生方に厚く御礼を申し上げます。

2023年3月

商学部長 広瀬憲三